一蚕稿言

全

一蚕稿言

へ遠13
1200

遠13
門
1.200
巻

例之酒癖

# 式盃綺言

式亭三馬戯作
歌川豊國狂画

江戸

一盃綺言自序

酒とゝのまぬ者はなし酒とゝのまぬ者はなし。行ぐゝ酒を高砂のゝ声は高砂のゝ。たゝゆゝ。おのゝ上もゝ。ゆくゝ。酒をあとぐゝ。中ゝ。この酒を好めれ酒を守ゝ。生酔童質。十癖十戸。さてゝ子酒ぐゝ乃酒癖を中ゝ。酒癖乃癖を本屋は余母坊。中ゝ。ゆくゝ。さてゝ子酒の中ゝ。ゆくゝ。

さてさて是れ孔ふしわ絵ぶん。みもつて杯ふ。
もつぱら遠ふ人心とちつとさけんで出
こゝに冊子を盃綺言とつふ。

本町延壽丹好あつ

武亭三馬醉出

我獨さもつて酒の毒なるこゝろが醉ふ酒を聖あるべふ

一盃綺言標目

○まるくちがきのて酒癖
○醉くる上ふて酒癖
○盃のとり方れ酒癖
○陰く氣のつよ酒癖
○ちがてことをくどくふ酒癖
○つよふこゝろさる酒癖
○ひとり世ろくる酒癖
○無盃のるを酒癖

通計八種

亀
玉の盃
上戸
三馬

## 口を吐てうれ〜ぐる酒癖

汐樽の中へうり引あげとやうなる大坊主年八五十の
内ゑとゝあゆ汐くさくてそまるのちもるゝぬとゝふ
ありさまとて鼻ぶ大音声で
還幸ハッハ・ハッハ・ハ・ト笑ひてけろくと
まゝあふるゝ▲ヲヤ先生呂くゝ
ゆくてうう工●ヨウトゆきれと
のつけゆきるゝてヤこれハ内君・
まねそてヤこれハ内君・
イヤあぐやうるゝ・やどうも

たゝるぬ・どうも者ゝぬ・トふちゝ
呼鶯山設宮で揚米をゝと云ハ・
洗魚落雁・閑月羞花とも渭つぐき
荘ひぢや・夫ちやふよろてきゝの主人ぶ
朋友の六ゝてそもゝぢやテ・まゞ何ゑ
行ぬゝといふと云ふ・つゝぞ往ゝと云ゝて

たゝ〜ぐるまい▲うをぢつうや・
●何虚誕をいふぐぞ・この
主人ハ内君ぢゝうかゝい
ゝうてみるゆえ・大の
村学宮ぢや・イヤ又ゝての
洗魚落雁どのも▲ゝんで
ごぐゝいかゝまゝ・金魚が落雁を
たゝるの・西瓜死ゝぐるのといやよ・
●いやよ・いやよ・洗魚落雁閑月
羞花ゝ・内君の云貌死イヤうゝてゝ
死をゝわゝくゝのぢや・▲アレまゝゝあんゝるゝ死
●何あんゝるゝ・ゝんゝるゝバチト亭主を
ゝぐゝるゝてゝんゝゝるゝゝゝ内君ハ乳を
閉て放〜閉出ゝるゝ・亭主をハ入つて
縄へいれてゝゝく・ゝのゝゝゝゝゝ〜ゝゝゝ

あるものゝ・よき主人外牛▲ハイちよつと近所まで●ヱム・留守をするよい・ありゝ
さまゝるく云てやらう・儒者どの学者どのといふものハ嘘をぢうくとさや
して・色々と書くゝて・ハ・ふぢうり居るものゝ六ゝぬぶ・こゝの主人もそゝ山さい
男・あまい何ら・煙草の外ハ湯ふ入さとこゝハあるまいの▲よいのさ・ろくくそも
よくゝぐさいまさとぎろへあせハさ●イヤサ内君の目ろゝハ源之助・呼習伺ら・松八
ぐこのかゝくひともこゝそもあらうが・仕方の鑒定でハゆ〜たきの八助と伯仲
のあひぐらや▲源〜助・松八ッサ・ヲホゝく・こゝや・あゝ・少やナ・大酔さんハ来りも
来移つて役者の・ゑ紙ばつ〜やる・源〜助八宗十郎ふ・ろ・ぢ・松八と松助で
ぐざいまと・●イヤ紙ハ・あこゝ・ぐ・ぢを出〜あつて・このひ・ふ・ぢ・ぐ・ぢ・ぐ・ぢ・ぐ・ぢ
を出・こゝ内君ハあこでけるひゝあひそゝふハ・ろゝぬ・ハ・ことゝのハ夫婦ぢや・源
ありとも・ゑ紙さうせて・おぶ・ま・ゝ・者・ゝ花でも・ろけハ・ろ・ゝ・イヤく
まぐと・葉ふハ・ぬ・ト・イヤコレ内君・先刻・ゝ・ゝ・ゝ

[illegible]方の関[illegible]やう・衣服をけづるの成かをれるぢや・てゆまつの酒・これは
何のぞうに到来の酒でありうこそ・この主人ぞ買てゐく風でゐの▲イエ買
まうこと・なまえさん無論でもゐんでもゐる・買こと・買こと酒ぞハのまうこと
一合十六文位の酒を・こ合ろ五合四買このぢやうもれみつてる・ヘツトくをを
▲みこのう・つのぞ可憂ぞ[illegible]ところのゐん男ぢやて・トキニ為者を・ハアア
下酒物をゆぐこと・孫の裏西が地びにくゆうんぞれと・山西舎[illegible]
大先生ハとそれこのへ・トてくたゐんぢや・寺[illegible]こ紙屋・エト・中の町
ゐこ甘[illegible]梅ト・これこう生たまつこ・鄭の数決・[illegible]ものく寒見[illegible]
到[illegible]と・陸君ゐこぞけるこうこ・[illegible]てゐこの[illegible]ト・山[illegible]ハ・ト[illegible]
ハアア[illegible]・山[illegible]ハ社中こう・[illegible]こ宿こう・これ
かぢけてゐる日本布巻ハ・失人の[illegible]・全体まづふ地面の一[illegible]
ばてゐこといつ係者がどこふ・あるのめこう・この[illegible]ハ不経濟かとハ山方
の待ゐゐいことぢや・これハよつが・[illegible]・[illegible]
つけこのめのハ甘[illegible]・主人・左[illegible]の[illegible]ふ知己のゐるれを
ぐゐい・接ぞるふ他[illegible]・[illegible]又引ふ引このめ[illegible]

▲よくこうこちをあつーゐる事●おまぞ・[illegible]・[illegible]・[illegible]
一[illegible]も強の出さのぞゐハの・黄[illegible]者人・[illegible]方[illegible]を[illegible]せぞて・[illegible]
りてゐるこちこつハ・[illegible]・[illegible]ぞ不[illegible]ぢや・[illegible]
砕てゐ出で●行これハ・他[illegible]でのんぞ酒ぢや・[illegible]負[illegible]・[illegible]
ろくふのハ食せをこゐ・着も一[illegible]れとゐこて・[illegible]・[illegible]
考さ意姑が沃山元こ[illegible]て牛[illegible]出ス・豆腐を七歩ぞ[illegible]ふ・
干[illegible]さこ[illegible]で・一トロも食ゐる[illegible]でゐハ・酒[illegible]・[illegible]
[illegible]酒ふ歩現と出こゐさゆ・腸をさんぞに仕移ふこ・宝て平の切[illegible]
[illegible]ぞもいこゐぞであらうとゐこゐ・酒ハくふ[illegible]こぞ・負[illegible]
ぞて・[illegible]もゐの信ふこと・[illegible]て・一[illegible]二下ゐこの王張を出こぞ・先見明
ゐる物ぢやこか・▲一[illegible]二下こハゐんまりでぞいまこ●行こまふころこで
[illegible]くいゐる物ぢやこ・[illegible]方屁ともゐ・[illegible]・[illegible]
ゐ・イヤこれハ助・[illegible]今ここ・[illegible]て酒を食て来ゐう・負[illegible]ふ[illegible]
撫ことうけて[illegible]こ・コリヤ・モツト酒をつぐゐう・内君の[illegible]ふ
坪こぞめ・上[illegible]ぞ下で・[illegible]ぞ・[illegible]ハ・ハツ[illegible]ハ・

酔くらひ上戸愚痴だらうよ酒癖

たばこ屋のおやじ。
全体八三郎さんといふ人ハ。
わるくはないとは。やせても
かぶまても親方ハ親方ぢやな。
さてこハ親方のゆびをとる
中くそらつてゆびをとる
やうかゆめく。他人ばくを
進ゲせる様をとるめう。
人ハ人のゆびをとるとき
ぞうりをとらせてゆびを。
うんぞうの法ぢをつけ
ぢ様ふいとつてとる様
なちがつてゆびをとる。

様子ふるつてハとゝさうもわくめんで
ゆりおぶ。おめくのおぢされど。そぢこ
ろひるをさる。何も八三郎さんゞ今めち
ぢとりて。文字半紙めちゝぢやゞ臣。
ちゝ合力紙いつてとうでも稼く。バテサびんぢう
をわぢとそ。そんなさりしゆひきぢやゞぢ臣。
ちんのことよ。主。どう思ひるをさるぢうぢ
おぢされど。今のひ酒ぢ毒とゝ。ゝとこ
ぢとんちひをさりゆゝ。そりやゞとるもらさ。バテあころめぢ。
何もめこひこゝていのぢやゞ稼くが。子上。山ろハ山者ろ方ぢころいて。
鶏子の一足もくれぢころてあんをうぢ
めこひこゝろわくいか。これハ世の中の義理時儀とゝふものぢ。今ゝこゝろん
ちふひんぢうふをろれど。ゝとこもめこハ親方ふびふもつゝこめぢ。
おりくのおぢされど。バテぢいぶんをろこ
あの気ふおりこゝらくちめハれそハ。チヨツ。ゝとこもたくわく今ぢ。あんまり

やうくハ稲のさえなつのうちやア内のうゝどのもゝとゝぎろくこのもゝぎろくさのとゝぎろ
けづりアとゝぎろくれど・ハテたゝゝ紙ゝゝゝゝゝ・時代〳〵・ゝゝ・あれもひろゝれあれ
ゝゝ・人ゝゝゝが小馬屋ゝもゝゝゝゝゝ

エヽ・でござりまするか・夫ハ有るわど有る事でも・性ん湯性ん湯あづつて・それ〳〵又ハ第一番性がめちあづつて・三番三湯性ん湯あるてハ・ちつとあ望あり・やそりあ別ふ思りてるかのでござりまする。

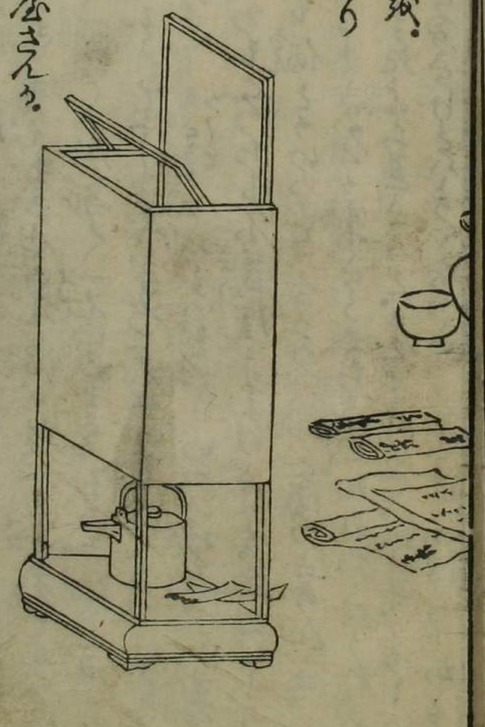
ありひざーとあるえ色にあづるさハ・お方まるとにありがるハ。

るまでもこれハ・お別ふく・イヤ〳〵・出殘・出殘の事・千三湯さんの方〳〵ハ〳〵まつりまると・お指ハでハるまでも・これハ有願・ハイく・

でござりまるとろう。

さあ〳〵ござるばあまのと成・指・指ん・ハイく・でもござりませうが・まづく・

陰く氣のはよく
る酒癖



ござりまると・ハイ方屋で
後ふまてあるこのまー・まづあつまりませあ・
ハイく・トかり引遠てハイいせやでござりまるとモちつとるこて・まてあるんるさハ・ハイうーこはりまーこと・トかり●サアくうけとりぶ
陰く・ハーよせて・まてくく・エヤト・まづあ歩〳〵て〳〵やう・方屋が金三番
三方トあるる・ソコデ・いせ屋が三方あるる・まさやが三方・米屋が部屋部方
山みふこざくお・おあ〳〵てこあいくとあるぐらう・大屋さるも三月たまる。

ごうもこるつことめんど。トあるもなんでこざる〔モシヨ、せう是ぼさんの働も。仕ゐと
出掃ふしてゆつくり。今度ハぜひ掃てゆくぶんよく。ごらぶん是和ごとくもこど。
結ちりめんの小袖もうけこい。●是和ごとくもこど。
さつぱり當が極く。けものおハぶうまくこう。チョッ。ちくこぶ極く。
ありこうけ沙をいつてこあう。てふこぐく。コレ。ちとちとここへ烟をこて
めこうこう。彩いつときこハ酒ご。沸るゆ酒のことさ。アふこぐく。トいふこここ
〔ハイ。まきこうでごぶこうもと。●ハイまきこうさんこう子。モちつとこて来てあつれ。
〔ハイく。トいり。●サアく酒〳〵。ごゆく一盃のまう。その方酒の中ハ
ちゆんど。貫のあつぶこう。それでよう〳〵。まづ一盃か祝酒をあげよう。
トぶこうのんでこいやめちご。トちこここてつこいぶく。いこの袖おおふも寿
命がちぶまうぶ。めつちもこうちも不義理ごけこう。面白〳〵ご
なこう極く。大盃さるつも何とこいハぶこハるゆへス。アこゆつことんど。トこ
又いつぶい彩ごふようこて。まきこうゆが来こ
一昨日の晩の別命ふまれよこら五こうと。まづこれこて御佛。でつこい
く。多つハ法度のさるつこげこハよく。こつこス。トこれ〔ハイ。コレ。かこア

どん。甚酒を。こうちつと烟をこてこぶせへ。ヨト。今こう。万長をこどつて
拾ゐぶこう〔ハイ。こうこ。このぶが。さこうゆくいけばこくが。せめて五ゐでもいく。ちつとハ
肩がぬけち。トいつぶ〔ハイ米屋でこぶりまと。●ライ米屋さんち。ちこうこて。ゆか。
てうどつて。〔ハイく。トいり。●ライ烟がよかちこぶ。ジット奇の字〳〵。トのこアこゐ
つこのんど。米屋へもせめて。こうもゆこうゆ。おんまり義理がこうハ。
トぶこうこのこてこいやめちご。酒ハ祝の五合帰ッ。酒でも和理ふこうこう
ぶこハこれまでこう。今つきゆこもこいッ。ジットく。かくしく。かこア左衛門の射。チト
きけ酒といきこう。いこぜく。こうくこも酒でものこつしハ。何も義理
こうきこここハ極く。どうきこるのんち。あこる時ハ掃ゆこ。ゐの時ふいぜここハぬこ。
とんゐこ。ゆきこうこゆこも極くのんど。ゆちゆふこつこハ大ゐり小ゐこゆこう
めつご。ゐんのこゐこ。ごうきこるのんち。トつぢこうこ。ホウリ。トゆこゐを奇の字
〳〵。彩まこ酒をのんどゆハ格別ごぜ。トこうこうゆふ。ゲイリフウ。こうく。
大丈夫ご。物おこ何。ゆこうこゆく極くこぶ。掛こう屋ともゆめつど。何つごもわく。
ちんのゐこごゐ又。ゆこゆこ屋ともゆハ祝くとこつちゆア。屋ともゆハ祝ゲイリ。
何屋ともゆりふゆのち。こうこう〔ハイいせやでこざいまと。●ライせやち。かこう

ぎとぶのぜ・まぐろく沙て来さろ〜・「ハイ・ト」さうぐ〜・べらぼうめ・其ふと
くんべの間こ扇ろう・何掛ふものう・金俵他ふ物〜と俵ものといべらぼうべらぼう
掛ろふ・ふ・ちやぢる・おつ〜ア〜とぐつ〜・俵ろだろうで俵ろとこつふこけあ
るふ〜〜〜〜・取るとつふ掛もろ〜・掛ろふあつくことつふやぢ〜〜わく
ごろほうくめ・「ハイ・ま・きろやでございまつと・●ナニまつきやまぐ〜くめつと
ゆくく来さろ〜・「ハイ・ト」さうり「ハイ万屋でございまつと・万屋・モシト
おつくきさろ〜・「ハイ・さうるろヌ人「米屋でございまつと・シツト米や
さんう・ふ方ろ〜めつてやろう「イエヌまつつまつせう
●何来ごとこもいろ〜ろか・ころろ〜〜やろよ「イエどうせ
ゆ近ろへ・ア〜がございまつと・●そんるろヌ来て
アきさろ〜「ハイさうろ・ヌ人「ハイいせ屋で
ございまつと・モウ・ちつと後ふ来ゆか・
「ハイ〜〜〜ろまくさん・ろが仕舞でございまつと
●そんるろ〜こつち〜〜やろう「イエ何
今ぐ〜〜〜ろでつろふとろてやさいまつ〜・

輪が〜さろうまつと・あまろ
ろとるろ〜まつ〜〜〜ろ・ふ
ろるるろ茶ハ長ろ〜〜
つけてあんるさこのまつト
●行よ・弟知さよ・
今まぐ〜金ぐあつまろ
行く・おつ〜けころち
〜〜ものこせてやろう・
知方にさろ
いろつ〜・掛ふ
ゆくこいややせん・
随ろ掛ろ〜〜あんぐる
えんるとるつ〜〜さろいろつ〜・
「ハイさろ〜るろ〜ぐろろそおろこのん
ゆまつと・ソツリ「ハイ万屋でござい・●ヲヌろ・

「ハイ、まきものでござい。ヤア〳〵又あつらへ「ハイ、まきものでござい。ヤア〳〵まつらへ

「でんなさい、青やでござい。ヤア〳〵まつらへ

油屋場と申て、燈籠のやうに、ぶらせの

同まぶたをしく、ゆるせ、サア〳〵かつぱどん

こなう、五合だるのひべい。

そばうらさめさうど。

サア〳〵五合ぐらし。

こなう五合のそやつ。

かけとうこうわく。

居酒屋でも

立催促でも。

何でも角でも

撥ねて三斗

五合だるう

ひつうけべ、ゲイ〳〵アウト、ゆべ

おつ〜こなくどくいつ酒酔

きものの上をだらしなくとさげ

鞘へゆるく、あめ、ちぎりはまぶん

ぬげて、ちぎりもるをくちよごれと

そろでるめたらくーたにてゆうりく

「又酒うく。ちこのごのく。

エつくく、コウ金八さん、それ

さうとの。おつ〳〵あめへふ

用ゲあつて来こと大用ジく。

▲とそそふ辞さ、ざくきこく。

なるあきのやうぐ、「何、まぐく

酔やア〜わへよ。コウ大用とは

外のことでもわへが。あ〜こと王子へいうと

やふぐいうわへか。こまるやうく。あれこう鼠の川へ

まつんて。海老やう扇やでのひつりぐこまに

▲よろうらうく「あのへそのあうであつびわへ、ぶそ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

△るんざ・このがきめらハ・何ぞをら〜ハ・
ヤイ・何ぞをら〜をてをらるる。
をら〜をらをらハ。
あれがあのをてを
又をらをらふをらを
をらをらふをらり
コレく可門・
きんぎん
半右衛・まぐ
ひをるぬをを良てを
コレをるをれら。
「イヤをるをれ。
△るぜをををれ
「をるをををらをぶ△イヤをらをれ。
何・何をらを・ト引ぬをるを半しふ
よをらくをらを
「をれをんをら・をまぐをれをぐを
をるをれ・をを姉貝ををらくしるをを
ををををををれををををををを

△不門・るぜをるげを。
をるをハ何のををんが
あをを・をるげを。
出ぬけふるげを
ををむを・ト引をををを
ををををふ
ををををを
「るげをのををるハ。
半右ぐひをををを
ををんをのぐ△うんゆや。
ををハをををれ・ト引をををを
をををふをををを
男ふををを△ヤイををふ
をるをを・るんざ・ををハ
をんざ・ををハるんを
をれををる・をれハをれざを。
をれハるんざ・ををるををを。

これハあくるぢこ三四つあつて。ぐるくぐるくまろる。ろぐぐ。これハぐるぐる。
サアきりく正辞をあくふハせろ。トひろくろくと。ゆえ。○ろくのくぐろと。
いろそろのく。△どうぐ。ごうんをれ。つよ
いう。ナア。もろとつくびふげろくせふ。ちのいくハ。ゐんでゐるぐ。ぐるくぐ。
コレサ。げつぶんぐるいくく。
ぐろくふさろ。ゐのよ。
△ゐんのぐるいぶん
ろろくくゐん。
ぐるぬ。ぐろ。
ぐるぬぐ。
下内。いつの
ぐろ。ぐるぬ
あくゐハふえと。
たくと。ぐのゐふ。
ぐるくふゐくと。ぐるく。
ぐるくぐるく。アレぐるる

下内。なのぐ。ぐるる。コレハぐるくぐるくぐ。
ぐるハくの辞ぐ。ぐるぬぐ。△ろんあや辞ハぬ。
ぐるハ辞ぬぐ。辞くとぐるくく
あてぶちぐふ。コレ。どろくもぐけ。
ぐるれハ辞ぬぐ。辞ハぬ。ぐるハ。
コレ。えをれ。ぐるぬぐ。ぐるぬ。
ヌどくくく

ちくしやうめ。ゆいきでゴイ。けんくわ。ごぼううめ。
きんさいくづき。猿掛ゴイ。たそ引。させぶこふさげ。でッ。さし。うきくいく
せるゑ。おもくれへく。ぶんごうめつぶにちおも〳〵ゆく。これ〳〵ゑ国をひやうと
べへ。トぶくくあきんどのめまれを一くまぐゆく「ああ十ヲ六文よ。名代でありひるさいおこ
ゆげにめちよいのぢやッ。へこそそられれく。ああやのをぢさん。夢ゑ丑みとろ。
ぐくぎと暑いのう。コウ口文くんね。ヲイ。ぶろきり紙とろせ。ソレ。さんるほう。
ナニひとろ。あまけう。このうさこそ丑ろぐゑ。ちんとあまびなこ稼く。計あをそやりぐくりり
「ろんるゑ丑〳〵ッ。ヲイ。西瓜買ゆべい。いく〳〵。八文。ヲイ。お縁ゴせ。トぶんぐ
とくびき。たをそこそこぐてみると。ひきの方に女天のまめちゑいつぷき
あまくこのまめ稼ふちをのませるぐくまをもくなりて。ッくバッくとつてある。どろうど。ぶち。
駄ちつう。てゆくもてゑ猫者ゴナ。ぶろうど。乳けハ出ろう。てゆくのハ乗乳ゴナ。
指乳のう。乳母ゑ公でも。銭金ふゆうア。とゝのこ。行。ワン。べろやうゆ。
ぢ風ゑ奴ゴ。ニヤンとでもるけバい。ソ」西瓜をゆうべ。ぶろうど。かいいろ
へこ富生ゆ。ちろとあまびふきこそ〳〵。トとくりてりろる。「京都烏丸本家
枇杷葉湯。烏丸本家枇杷葉湯のゴ義ゑ。毎年四月上旬より八月
下旬まで。葉湯ゆくこそたちう一面ふちうまうまうまッ。ヲイ枇杷公。



一金くんね。ヲイ来ちう。ゆりがく。こちうハ稼ゆう。こちうを
ゆう〳〵物ゑ〳〵大汗ゴ。冷ゆ。ゆうハ。ゆ。ゆ。ゆ

歩行く。おまへは知居るか。わつしは知らぬ。その外者どもは何者ぞ。いかに
く、そめく、トンく、アとん〳〵ッ。八人憂の者どもの新入をするぞへ。兼さんやそこと浮
居るぜ。ヘンこてくられぬく。都さん。ちつとあまちひまをわれく。べくおねがこ。合ハ
ゑんど。新関。新関きてくべ。ヨうまくやるる。チョッ。あぐる声ざぜ。ヘン親を
拝めく。へぐどく。いつも思ふ通るまどッ。ろそやちの日待ち夜具形行や
山形造さる。アイのも後生とおがりしめし。毛氏の古いのをいてくるせてい
わさろもせやお見形さるッ。ヤさろいろく〳〵。腰歩ハ山ぶ居ろ。ろさごうざ
徒歩ざ。ひりしいろ。ヨリ十くハ。ごらうぜ。コウ徒歩。拝ろ〳〵。蔵王の蛾と
いつ。ぐざ。わく八。宝蔵。潮。ちうめくさ〳〵ぐ。一トくさりやろ。一四文やる
べい。トひろく〳〵ゆ。ろ。ろ。ろ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

盃
●かこぶさのの
▲江戸っ子うけ合のこと
●イヤくまあのまんせ。
そこのいろことらふくそこく。
酒といふこそこトット
ろーひとりぢやぶか。
そりやマア。めつさうな。
あまりづくあいいかか。
▲ハテまあのこまあせ。
あの酒ときこそ。
いこそのんでも
酔ふ程へせ。
ふそこの盃ろか
酒ごりの盃。
そのそこぶこと。
江戸で一升
買ふ直ぢやア。
三升も買ふ
ざらく。
●ふんぞ
いふこそのか。
あわこしい。
ふ系ぢやて。
そこるいふ悪い酒ハ
のませんぶか。あれでも
一升ぶきこそのもりの上酒ぢや。

▲それ是ころ、江戸ぢやア一升二百文半の酒ハふせうちご、おいらゞのむ酒ハ三百三十二文ご、ちゃくとの二升と、ろちゃ升一升とうけ給ふ、その外、

●ヤそうやあつこうぢや、カシあちでもナ、富士見といふてこうゐいるよ、

▲江戸っふがりやア、ぜひ富士見き、カシ毒くいれてあるて、ひきくで酒でよこまそふやア、なそれるよ、ゐんごろ、ろこ極へが、江戸で、彩酒屋のむせうふ、ゆもちご、辞ことありつてもあくゐのがるだろうで、のどこう下ハ辞稼へ、ろこ、それこうこう、かこぐこれさうりハ、辞ことありつてもぢきにさめるハふ、富士見といふこ酒が、一っぺん江戸へ来て、又のぢせこ酒といふだろう、

●イヤくそうや、おりぢや、ゐんのゐのといふそも富士見ハ名ハいふ、ハテ、紙ごゆまこと、ゐ山ふもナ、

▲ハテ、そのまへ、おいらゞハのんでまていゐのごろる、かこぐこの、ろこハ、おこごけゐくて、欲ごうう、深へ、ろんのゐよ、切てこと血の出極へ、ろこぐこう、ふごこの名もあうぐて、

●ゐんぞいつそうる、ありや、富士山を二度ろるこうふ、そこでいふこ富士見ぢやハいる、江戸子くといつても江戸ゐこふこく、ごこぢや、ハテ、欲をころうゐこいハいの、欲を考こ極へ、欲がこれと、夕ぎろうもちろうこあるいる、

▲いろふ、欲をこれごろて、小便と青菜成、ゐ者こもちろうれく、かこぐこで、ハ、在ふりのとこふ、江戸ゐこ屋ゐこもいひこうる、奴ゐ、まこ来と、小便考こ、牛房と小便考こ、ト云て、あゐくこう、あこゐ又、小便をこゐに連をこぐこのこと、ろこ、小便と云ゐ、ゐこれこぢやふこ、物ゐ毒来ゐるこで、冥利ゐ、ろこハ、関来のつ、こ小便こう、行こう、ゐて、出ゐ極ハたれゐ、ぐーぢや、途中ぢゐろゐ、溝ぢやろゐ、連こて、ア不縄ぢやゐか、ろこいまア、江戸衆ハ行作ゐころこへ

▲ゐんの又、ゐこぐこで連小便ゐ、出来ゐるものゐ、あこゐこゐ来の町をあゐく時、十人づれごろけゐ、一人ゐ小便ゐころこ、あとめて名ゐつゐ、ゐこ、その近ふの溝へせうと考ここゐ、近ふ合極の真ん中ゐ出て来て、ろこちやくあこゐで、ゐこ、ゐこ、我ゐ内の小便ふくさせこぐ、そこゐこゐこゐこゐ、あのかしやんをこゐこ、ゐこ方でゐれヤきころ、イヤモウ、ありげで、羽ゐの汁の実ゐ一把も余ゐふ、ゐこまこ、マヅマア、ゐこぐこ、ゐんのゐのと、紫桐こぐこ、文こう一ぢんゐ

撰びうとかりて雪隠を借りうとうの。お家さんとういふかゝが出て来て。おりぐらの八百もいつて。こちの人とおいらの江戸さんのとこべてこゝ来雪と雲。いろ〳〵紙くずりんまの上屋ぢやさい。亜ぢ打ぐこもらぐいまそる。マア茶〳〵ひとろ。トお茶を汲で出す。●あるいろいろんところ。そるいねへケメレが行間ふあるぞらふ。そんなうきろんせ。江戸ふのくせとこふ〳〵。寄ぞろつとうて。ぢぐちのチ。マアおいてアとうるう。底のるん貸くの物つめるかうねりんぢや。ニよつて。上方のぢりもと。往しるハ大じんぢやが。扇りふハ左合ぢやい▲なんの左食とろうも極。●イヤ〳〵ろうんせ。左食ぢやく〳〵。扨ふて物左ハぬぞうぢや。上方の人ふ。そるいふ〳〵るへいろる。イヤヌこるる肉へいつのぢやるいが。料理といふて〳〵上方が上まちや▲上まろ〳〵ねへが。鯉の濃汁といふ。白味噌で食せるふハ打こゼ。●そろや。浪花の芋も伊勢の実荻ぢや。おまへ方が伊さふう芋居ぢや。そ丑〳〵。紙異肴で伊吉りぐ〳〵ねるるちや。名山系るぐも。ぢるやせまいぶす▲菜畑をえて来こ。●サその伊ふるちやとおりふこのか。トツトめう。肉と外とふナ。いろ〳〵聞ふさりんぢやいつのふ▲ハテそうやアめう姫在ねへ。りうませ。来るませ。出ば〳〵。も笑こりんぢ。●おるめの河ハ。ぢう芋そ。そのめ板ぢやが。あれもる。地の芋るの河と。伊居や。娼妓の河ハ。それ〳〵に遠つてある▲それハ江戸でも遠ふ〳〵そのもぶ。生測〳〵とのふ〳〵。どんるふ極。●コレうぐ〳〵この芋こと。ふんのるちやいるる。江戸の芋うとふこう。芋人板こうてあらうぢや▲ちやこ方のもふ合とふう。●もふ合もあるいろんこる。少ぐるいつの▲そんるう上ハテ江戸の元とふう。おまへも又。かうぐこの元といふる紙いつる。そこそ又。料理とふこう上の生測ナ。丸山の埋の寄るる▲りこく。そんるりふこと。●そのふまこ。彼的が紙テ▲コウ〳〵そんるふぐ〳〵こるるる。江戸の料理家もうぐてこうこう。マヅ。江戸むこぐ百川。東森二丁町小山の二軒茶屋。ひふ島ふ王子。●アこれ〳〵紙いつるく。そんるる。紙こと。そうりやマア紙ふ。てあのそ。ぢこう仮紙るとりんふ。▲りんう。●りんこふるんのこうちやいる。▲りんうとふこう。

行んとゝのよ。●テモ名ゝへ口ぢやちゃ▲その手までひとろ。
●ヲトゝゝこゝろやアどゝゝてつゝふさる。ト位りふあふ方
△ばくぐゝぐゝこゝたきなゝぐゝ

一杯綺言初編終

江戸　戯作者　式亭三馬作

浮世繪師　歌川豊國画

筆耕　晋米書

後編　二盃綺言　中本一冊　ほぐして出板


諢話浮世風呂四編　男湯出来　後湯出来

初編。男湯全三冊　二編。女湯全三冊　三編。女湯全三冊　先年賣出有之

式の屋三馬大人編著

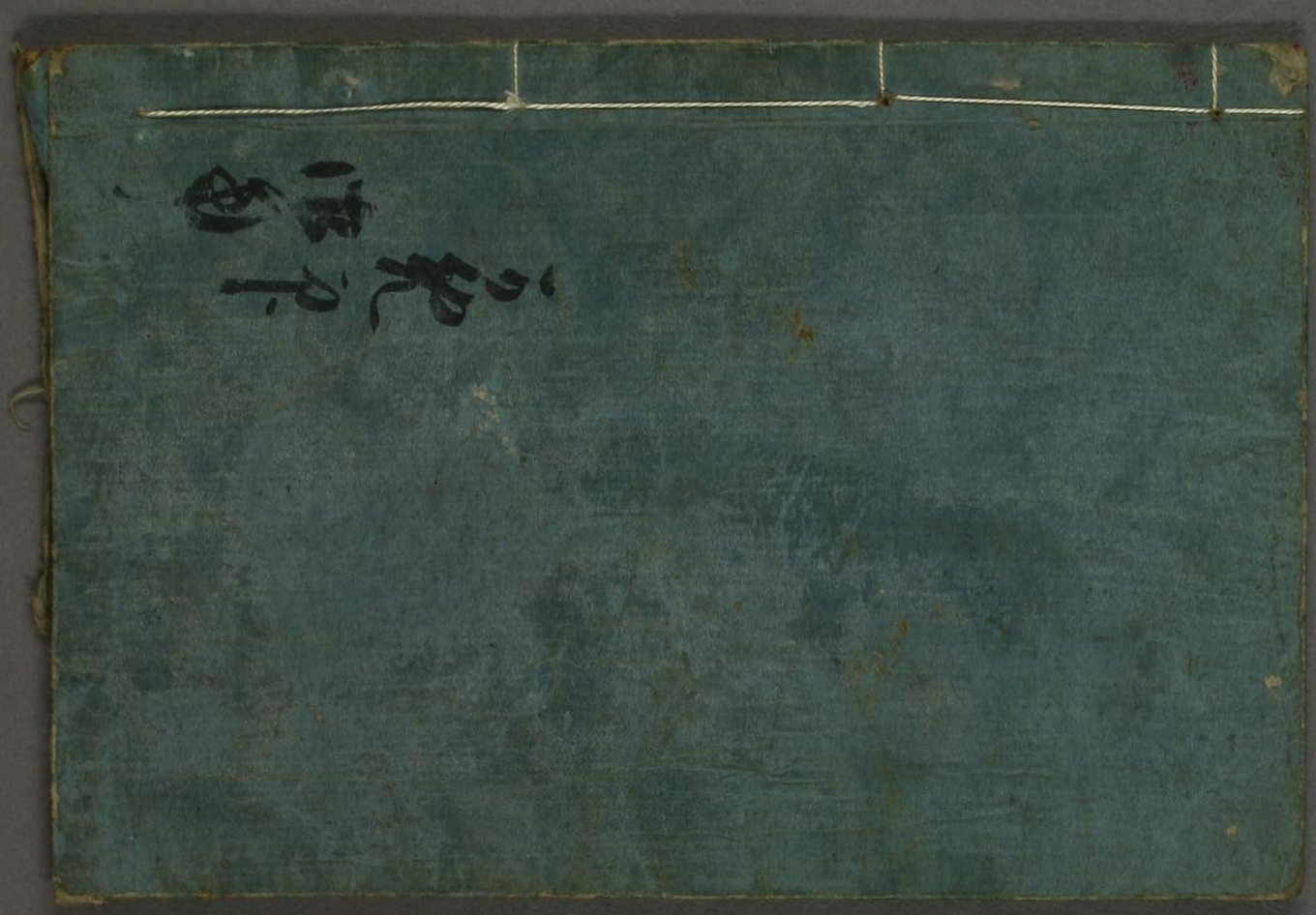
未雅比萬葉集全三冊

附錄　頬冠辯ニまぶり

文化十年癸酉正月發市

江戸書賣

小傳馬町三町目　津村三郎兵衛　仝

日本橋青物町　西宮平兵衛　志

江戸橋四日市　石渡利助　梓